

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全体の平均正答率では、全国比△6.7、東京都比△4.0であり、全体としては優位な状況が見られた。しかし、問題形式別正答率をみると、選択式で全国比△14.4、東京都比△10.4に対して、短答式で全国比▲11.1、東京都比▲13.0、記述式で全国比△2.2、東京都比▲0.7と記述形式の回答の正答率が低いことが分かる。

以上のことから、知識の定着はみられるが、特に書くことでの表出の仕方に課題があると考えられる。『わかる』から『できる』のうち、『できる』に課題があると考え、以下の2点を示す。

- ・考えを表出する際に、基本的学力を組み合わせ使い、粘り強く学習に取り組めるようになること。
- ・書くことでの表出のためのポイントを理解し、自身の記述の型をもって書けるようになること。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【課題】

- ・接続語を意識して文章を論理的に読解すること。

【具体的な授業改善策】

- ・教科書中の指示語、接続語を探して印を付ける。

【令和6年度末に期待する児童（生徒）の姿】

目的や相手に応じて、内容が伝わりやすい分かりやすい文章を書くことができる生徒

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・単元のはじめに既習事項や関連事項の復習の時間を設けている。
- ・知識を活用する際の良いモデルを示すとともに、悪いモデルの修正の仕方を示している。
- ・漢字、文法の小テストを週1回程度実施している。
- ・考えを表出する際に、第1段階としてICT機器を活用して構成の修正や語彙の選択を見直す時間を設けている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①国語の勉強法が分からない生徒のために自主学習でどのような学習をすればよいか、各単元や授業の際に例示する。
- ②高校入試、高等学校での国語を見据えられるようにするために、各単元での学習事項の活用の仕方や、高校での知識との関連を示す。

＜検証方法＞

- ① 各学期の知識技能の達成率B以上の生徒の割合が8割を超える。（1学期：76%）
- ② 各定期考査に高校入試を想定した問題を出題し、その問題の正答率を見取る。

4. 検証結果（成果と課題）【年度末に記入する】

＜成果＞

国語における正解がどういう考え方なのかを身に付けた生徒が増えた。

自分の体験と作品とを結び付けて思考できる生徒が増えた。

＜課題＞

知識技能の達成率B以上の生徒の割合が71.4%（2学期）であった。1学期から▲4.6ポイントであった。学習内容の多さに対して、学習時間を確保できる単元計画や家庭学習の提案をしていく。

5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

〈授業改善推進プラン 令和7年度 第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の結果から、全国値を下回る（-0.9%）結果であったが、活用力を問う設問に対しては全国値を上回る結果であり(+2.5%)、「活用力」や「思考力・表現力」が強みであることがわかった。 ・基礎問題は全国値を2.5%、知識技能を問う問題は1.9%それぞれ下回っており、特に用語や出来事の整理、理解に課題があると言える。特に歴史的分野での基礎的な年代・出来事・因果関係の理解が十分ではないと考えられる。 ・以上のことから、単純暗記ではなく出来事の因果関係や流れを掴みながら、土台となる基礎知識の定着を図ることが課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 [課題の改善に向けた方策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一人一台端末を活用し、毎回の授業で前時の内容の小テストを実施する。 ②ワークシートの中に、表やグラフからの読み取りに関する問題を多めに設定する。 <p>[令和6年度次学年末に期待する児童生徒の姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや表から、地域の特徴を読み取り、説明できる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ①單元ごとに小テストを実施して、社会の基礎的な用語の定着を図っている。 ②基礎的な用語を確認するだけでなく、出来事の流れや因果関係を掴みながら理解できるようなワークシートの作成をしている。 ③ワークシートに本時の学習を自分の言葉で整理しまとめる発問を毎時間設定している。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ワークシートに、資料や既存の学習内容を比較して相互の関連を問う発問の設定や、学習した知識技能を活用し本時の学習内容を自らの言葉でまとめる活動に取り組む。 ②單元ごとに小テストを実施して、基礎的な知識・技能をより確実に身に付ける。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①各学期の思考・判断・表現の観点の達成率が60%以上の生徒の割合が75%以上となるようにする。 (1学期:62%) ②定期考査での知識・技能の観点の正答率が65%以上の生徒の割合が75%以上となる。(1学期:60%)
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路選択への意識も高まり、定期考査における知識技能観点の正答率65%以上の生徒は68%、思考判断表現観点も73%と上昇した。 ・身近な事象を踏まえた授業展開により、公民的分野をより身近なものとして捉えさせることができるとともに、知識を活用する場面を多く取り入れることができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望校の状況や進路に対する意識の差により、学習への取り組みに差が見られた。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 数学科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

・多くの観点において全国値を下回っている。「知識・技能」の観点は全国値 56.4 のところ 46.6 と大きく下回っている。「思考・判断・表現」の観点は全国値 44.4 のところ 38.6 と下回っている。昨年度の結果では「思考・判断・表現」の観点は全国値 36.5 のところ 34.8 と下回っているが、差が大きくなっている。

【解決すべき課題】

・今年度は「知識・技能」の観点の問題については、特に「数と式」「関数」の領域の問題において正答率が低くなった。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

・基礎基本を身に付けるために、課題等で演習を繰り返す。その後、計算問題のみ的小テストを実施。
 ・授業中に生徒同士で説明する機会を設け、自分の考えを言葉にして相手に伝える機会を設ける。
 ・既習の学習内容の復習を多く取り入れ、その時間の学習課題を考えるヒントにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

・問題演習量を増やす。(問題演習を繰り返した上で、同じ形式の問題で小テストを実施。)
 ・毎時間最初の5分間で計算のドリルに取り組み、基本的な計算の技能の定着を図る。
 ・授業内での机間指導を意識的に行い、数学に対して苦手意識のある生徒への支援を行う。
 ・小学校や中学1、2年生での学習内容の復習を繰り返し行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

①既習内容の復習、基本的な内容での確認テストを複数回実施する。

＜検証方法＞

①各単元の確認テストや定期考査の中で正答率の維持もしくは上昇するかどうか。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

・1学期では基本的な計算問題の平均正答率がおおよそ55～60%程度だったが、2月時点でおおよそ75～80%程度に上昇した。

＜課題＞

・計算方法は合っていても四則演算の間違がある、素因数分解に時間がかかるなど、正確さや計算の速度については課題が残る生徒もいる。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村学力調査の結果から、令和7年度は全国平均(50.8)に対して(46.3)と下回った。令和6年度の全国平均(56.0)と比較すると、令和7年度の全国平均(50.8)と下がり、内容が複雑になったことへの対応の影響も考えられる。観点別に見ると、思考力・判断力・表現力が(49.3)に対して(50.5)と上回っているが、知識・技能が全国平均(51.8)に対して(43.4)と下回っており、知識・技能の定着に課題が見られる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組む態度を改善するために、自分の学習をふり返り、知識を整理することを目標にOPPシートの活用を行う。 ・知識・技能の定着させるために、重要語句の小テストを毎週行う。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元まとめテストの実施 ・つまずきやすい単元の復習プリントの配布 ・ふり返りシートのデジタル化 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①ふり返りシートの活用により、各単元で確認テストを主体的に取り組む。</p> <p>②観察・実験のレポートを共有することで、いつでもどこでも学びに取り組むことができる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①既習事項が定着しているか(平均正答率 60%以上を基準とする)どうかを単元末テストで検証する。</p> <p>②観察・実験への取り組み方が思考・判断・表現に結び付けられているか(平均正答率 60%以上)を定期考査で検証する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルワークシートの活用、ふり返りシートの活用によりいつでも自分の好きなタイミングで学び直しができる授業を実施でき、家庭学習の補填ができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識の保持に課題が見られるため、定期的に既習事項の確認を行い、短期記憶から長期記憶へ変換していく必要がある。 	<p>5. 令和7年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

授業アンケートの間5の設問について、否定的な回答をしている生徒が15%いた。R5,6年度は一曲を通して速度指定がJ=120程度、臨時記号が少なく可能な限り順次進行が多い楽曲を選択したが、本年度は穏やかなテンポ感、ジプシー音階による臨時記号の増加、個人での反復練習が求められるシーンが入っている曲を選んだ。取り組んでいる楽曲の難易度が上がり、簡単に演奏できない場面が多かったことが原因として考えられる。また、問6の学習者用端末の活用においては、否定的な回答が10%あった。より学習の定着が実感できるようにするため、学習者用端末を効果的に活用したい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

【異学年交流の実施】3学年のみで練習を実施した後、全学年合同の授業を実施する（器楽分野）。最上級生として、「教える・まとめる」ことを意識し、責任感をもって活動に取り組めるようにする。リーダー等の役職に就いている生徒も少なくないため、成功体験を多く積ませるような場面を設定し、「自信をもつことができる」授業を目指す。

【ICT機器の導入】本年度5月より、音楽室にモニター画面を設置した。実際に教師がお手本をして見せることの他に、視覚的な情報を積極的に与え、演奏のイメージをもてるようにする。また、2学期以降、各パート、各楽器の“お手本動画”をクラスルームに投稿し、生徒の学習端末から1人1人が視覚と聴覚を使って目標となる演奏を把握できるようにする。演奏の様子を撮影し、課題を見つけ、自分たちで練習計画を立てられるようにする。ICT機器の導入で、生徒自身が「演奏で表現できる」授業を目指す。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・1つの題材内で振り返り欄を設け、できたことが実感できるようにしている。
- ・R5年度より、単学年での練習はパートや個人練習ではなく全体合奏に限定し、そこで習得したことを異学年合同練習で活かすサイクルを実践している。また、学期末に実技テストを行い、少しでもできることが増えたことを実感できるようにしている。（吹奏楽）

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

①授業の中で振り返りを行うが、「その日できたこと」の記載欄を設ける。また、奏法等に関する疑問点に答えていくため、質問欄を設ける。

②全体合奏を全校吹奏楽指導の基本とし、一人ひとりができないことの原因を的確に指摘し、その解決策、解決策の挑戦によってできたことの価値付けを心がける。また、楽曲内で「頑張ればできる」領域を見極め、課題設定を行う。

<検証方法>

①年度末の音楽発表会後の振り返りで、できるようになったことに対する具体的な記載を見とる。（自身の発音・発声の変化、音域の広がりや、合唱の全体像に対する変化を感じ取った記載）

②年度末の授業アンケートにて、問5と同様の設問の肯定的評価が85%以上を超える。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

- ・問5について、肯定的評価が85.7%となった。
- ・学習者用端末の利用について、肯定的評価が95.2%であった。

<課題>

- ・できるようになったという実感が、楽器の難易度に左右されてしまう。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

中学校卒業のため記載なし

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 美術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったつもりになっているが、本当に理解ができていないことがある。 ・「できた」だけで「わかって」いないことがある。 ・生徒の授業評価アンケートにおいては、3名ほど前向きに授業に取り組めていない生徒がいる。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での学習を定着させる時間をとることができないこと。 ・定期考査における得点力が伸びないこと。 <p>授業アンケートにおいて、「制作などの活動に積極的に参加できている」では100%が肯定的意見だったのに対して、「定期考査に向けた学習に取り組んだ」という項目では肯定的意見が90%だったため。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「説明（わかる）→作業（できる）」では、生徒はあまり理解していない場合も多い。「説明（わかる）→作業（できる）→説明（わかる）」と同じ内容を繰り返すことで、自分のやった作業と説明がつながってくる人が多い。テスト前に補習を行い、同じ内容を確認することで、定着と紐付けを行う。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①机間指導を充実させ、個々のつまづきに気付き、丁寧に対応していくこと。特に、苦手意識をもっている生徒に対しては、丁寧に声掛けをし、どこでつまづいているのかを把握して取り除けるようにする。</p> <p>②振り返りを毎時間提出させ、それに対して個々にコメントを入れて返却し、授業で質問等がしにくい生徒に対するフォローをする。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作品への現れ方を見る。 年度末の生徒授業アンケートにおいて、肯定的意見が増加しているかどうかを見る。</p> <p>②作品への現れ方を見る。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている生徒が、自身の取組には評価が低くても、授業自体には、評価をしてもらえるようになったこと。 ・振り返りの提出率は、全員ではないが安定している。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容が、身に付いたり、将来に役立つというような感覚がもてるとよい。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 保健体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を受けて、科目に対する興味・関心が一層深まったと回答する割合を増やすこと (あてはまらない1名、やや当てはまらない6名、やや当てはまる10名、かなり当てはまる3名) ・授業を受けて、学習内容が身についていると実感していると回答する割合を増やすこと (やや当てはまらない4名、やや当てはまる10名、かなり当てはまる6名) <p>【令和7年度1学期実施授業アンケートより20名回答】</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や1時間の見通しを持ち、主運動につながるように積極的に取り組むようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各単元において、学習カードを使用し、見通しをもって授業に臨むこと。 ・学習者用端末を使用し、知識と技能向上の一助とすること。 ・仲間と振り返る機会を設け、本時の振り返りと次時への意識付けを図ること。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学習者用端末を用いて、運動や保健の学習に主体的に取り組めるようにすること。 ②学習カード等から生徒の躰きを把握し、個別や全体に共有する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2学期授業アンケートの上記項目の「当てはまらない・やや当てはまらない」の回答の減少 ②2学期期末考査の得点と生徒自身の学習方法の振り返り
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>〈結果〉回答19名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期の授業アンケートでは、科目に対する興味関心の回答は、当てはまらないが1名、ややあてはまらないが1名、やや当てはまるが10名、当てはまるが7名であった。また、学習内容が身に付いているとの回答は、やや当てはまらないが3名、やや当てはまるが8名、かなり当てはまるが8名であった。 <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらのアンケート項目も、否定的回答は減少した。 ・肯定的回答でも、上位の回答者が増えた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・否定的回答をなくすことができなかった。 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果、技術の興味関心が一層深まったという項目が30%の生徒が「あまりあてはまらない」という結果だったので授業の中で生徒の興味関心を引けるような話題や授業の進め方をできるように取り組んでいく。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和6年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心を高くもち、技術の理解度を高めること。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1時間の授業の見通しをもてるように、授業の流れやポイントなどをあらかじめ提示しておく。 ・工具の種類によっては使い方の練習を行い、失敗をしないようにする。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①授業の中での内容理解を深めるために、机間指導の中で一人一人に目を向け、作業の状況やサポートをできるようにしていく。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①作業が行程どおりに進めたかどうか。</p> <p>②作品の完成度が高いかどうか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p>＜成果＞</p> <p>授業時数が少ないのでなるべく作業の時間を確保するように動画やスライドを活用して授業を進めることができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>次時まで何をどうするかなどの課題を設け、見通しをもって授業を進めるので、今後は検討していく。</p>	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 技術・家庭 家庭分野〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

①家庭学習や提出物における自主性の個人差

授業アンケート結果から、家庭でも予習や復習の時間をとっている(問1)：否定的10人、「宿題」「作品」「提出物」を期限内にきちんと提出している(問3)：否定的8人であった。そのことから家庭での予習・復習の習慣化に差があり、提出物の期限遵守にもばらつきが見られる。

②「わかる」実感は高いが、「できる」実感に差がある

アンケート結果では、「授業が分かりやすい」(95%以上)、「教材が適切」「説明が聞き取りやすい」などの項目において肯定的な回答が多数であるため生徒の「わかる」実感は高いことがうかがえる。一方、「学習内容が身に付いていると実感」(問5)では肯定的回答が80%とやや下がり、5人に1人が「できている」と感じられていない状況が見られる。

③『できる』実感につながる学び方の見通し」のばらつきが課題

「評価の提示」(問10：肯定的95%)や「振り返り活動の実施」(問6：肯定的90%)など、授業の工夫を感じているが、学習のゴールや活用場面などをどの程度自分事としてとらえられているかには個人差があると推測され、「できる」実感につながる学び方の見通しにばらつきがある可能性がある。

【令和7年度1学期実施授業アンケート20名回答】

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

＜成果＞・技能テストの告知を早めに行うことや練習時間を十分に確保することで、技能テストに向かう主体的態度が見られると同時に、技能の定着ができていた。

＜課題＞・家庭実践の内容に生徒間で大きな差が見られる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・題材の最初に「この学習で何ができるようになるか」を明示し、目標の共有を行う。
- ・振り返りカードを活用し、自分の成長や学習の成果を言語化する時間を設ける。
- ・家庭・地域との接続を意識した課題設定(例：地域での子育て、保育園実習)を通して「実生活やとつながる学び」を意識づける。
- ・評価基準(ルーブリック)を生徒と共有し、自分の到達度を確認できるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 題材ごとに「できるようになることリスト」等を掲示し、授業の見通しを可視化する。
- ② 学習の過程で生徒自身が「今、何ができていて、何ができていないか」を自己評価する時間を定期的に設定する。
- ③ 振り返りカードに「どの場面で自分の力が生かされたか」「実生活にどう生かせそうか」など、活用の視点を加える。
- ④ アンケートで否定的回答が見られた項目(例：学習の実感・振り返り)について、対象となる生徒への個別聞き取りや観察を通して改善策を検討する。

＜検証方法＞

- ① 振り返りカード、2学期授業アンケート結果
- ② 振り返りカード、2学期授業アンケート結果
- ③ 振り返りカード
- ④ 観察、振り返りカード、2学期授業アンケート

4. 検証結果(成果と課題) **【年度末に記入する】**

＜成果＞

・学習内容が身に着いている実感がもてる生徒が増えた。「授業を受けて、学習内容が身に付いていると実感している。(授業アンケート5) 否定的な回答が4人から2人になった。」

＜課題＞・提出物、学習の習慣化には改善は見られなかった。

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項**【年度末に記入する】**

中学校卒業のため記載なし

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 **【年度末に記入する】**

中学校卒業のため記載なし

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 英語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度村学力調査では全国値よりも総合で-8.2ポイント、観点では知識・技能-10ポイント、思考・判断・表現では-6.1ポイントだった。そして、令和6年度村学力調査では総合で-9.3ポイント、観点では知識・技能-9.4ポイント、思考・判断・表現では-9.2ポイントだった。前年度と比べると全体としては向上傾向があるものの、知識・技能において課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>該当学年が中学1年生であった令和5年度の授業改善推進プランでは課題として以下のことが示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> 村の学力調査ではほぼすべての項目において全国平均と同程度であり、おおむね良好な状況である。 領域では「書くこと」が92.7%の正答率と全国平均85.7%よりも高い値を示した。一方で、「聞くこと」「読むこと」に関しては全国平均よりわずかに高い値を示すにとどまっており、他の項目の優位性から鑑みるに改善の余地がある。 以上のことからアウトプットよりもインプットに課題があると考えられる。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの復習を導入時に毎回行い、基礎基本の定着を図る。 既習内容を活用したコミュニケーション活動を行う。 短時間で未修の英文を読む練習を繰り返し、復習とともに英語のへの抵抗感を軽減する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width:100%"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。</p> <p>②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。</p> <p>②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。</p> <p>②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。</p> <p>②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。</p>
<p><方策></p> <p>①各授業で前時の復習を積極的に行い、基礎基本の定着を図るために統一した形式の練習プリントを使用する。</p> <p>②ワーク付属のデジタルドリルや既習事項の振り返り教材を活用し、復習の反復練習を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元終了後に内容をどの程度理解しているかを確認する。</p> <p>②反復練習を確認するために練習時と同じ問題での確認を行う。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 統一した形式のプリントを文法導入時に使用することで、全体的な理解の向上ができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識が定着しない 反復練習の重要性や復習習慣の定着が必要 	<p>5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>		
<p>6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】</p> <p align="center">中学校卒業のため記載なし</p>			